

いろいろと  
さん

なほ



## この本は

---

この本は、主に、ツイッターで書いているツイノベ、#twnovelをまとめたもの、NO3です。

一冊目 <http://p.booklog.jp/book/36687>

二冊目 <http://p.booklog.jp/book/47555>

## モグラ叩き

---

遊びじゃねーんだ素人はすっこんでろ。

天使はハンマーを構えた。

地上の人々からイケナイタイミングで魂が抜け出してた時、天上から発見して中に戻るのが彼らのお仕事。

モグラ叩きの要領だ。

今日は多い。モードがイージーからハードに切り替わったようだ。

「連休なか日働く気しねえ」

[#twnovel](#)

## 桃信号

---

信号が黄からピンクになった。

赤の故障だよね？

とりあえず止まって周りを見渡すと後ろ歩いてる人達、手繋いでる。

向かいから来る人、キスした。

ええっ？まさか本当にピンク信号？それなら僕も。

ぼっちの人見つけて駆け寄ってハグ。

「何するんですか！」

ゴメン。なんか夢見てたみたい。

[#twnovel](#)

## 睡眠不足

---

最近寝てない。辛くて睡眠サプリを買った。

これ一粒で1時間の睡眠不足が補える。

飲んでみた。眠気はとれない。

更に飲む。全然効かない。

お客様相談窓口へ電話した。

「お客様、もしや睡眠を消失してはいませんか？本商品は補うだけの効果です」

そういえば最後に寝たのはいつだっけ？

[#twnovel](#)

## 蜘蛛の糸

---

雨か。

洗濯物を取りこみに行くと何かがおかしい。これは何？

雨かと思っていたものは天から延びる糸だった。

幾つも幾つも。

透明な糸を伝って蜘蛛が1匹降りてきた。

「恩返しがしたいのです。貴方を地獄から救いたい。」

いつぞや助けた蜘蛛らしい。

でも地獄って？私の日常そんなに地獄？

[#twnovel](#)

## 蛇

---

君と僕。愛も恋も何もないまま一緒に時を過ごしてる。

ある日僕が眠った横で添い寝する君。呟いた。

「蛇ってね、空腹になると自分の身体、獲物に並べて食べられるかを測るんだって」

こんな風にね。君はピタリと僕に沿う。

きっと僕は捕食される。

構わないよ。空腹になるまで楽しもう。

[#twnovel](#)

## コイゴコロ

---

コイゴコロリサイクル工場にコイゴコロを持っていく。

終わった恋は、ちゃんとちゃんと処理しなきゃ。

機械に入れてゴウンゴウン。

不純物を取り除いたなら、再形成して出来上がり。

[#twnovel](#)

作業終了。出てきた純粋なコイゴコロ。

掌ほどはあったのに、残っているのは砂粒程度。

## 空想する

---

空想する。星を空を大地を海を。  
世界を空想で作り上げ、空想の君を住ませる。  
可愛い君は空想する。星を空を大地を海を。  
世界を空想で作り上げ、空想の僕を住ませる。  
君と僕。どちらが本当の夢なのか。  
そんなのどうでもいいじゃない。  
砂時計みたく、二人で今を分け合いましょう。

[#twnovel](#)

## 女子力

---

最強の女子力を手に入れるため旅に出るわ。

彼女は言った。

この乱世を乗り切って世界を救うためには、誰にも負けない女子力が必要なのと。

僕を振り返らずまっすぐ歩き出す彼女。

背中を向けたままで僕に手を振る。

「頑張れよー」

僕は君に声援を贈る。

雄々しく逞しい君へ。

[#twnovel](#)

## 恋する乙女

---

職業、恋する乙女。

流れ星に恋を祈り、花を見つけて花占い。

ミルクティを溜息と共に飲み干したなら、恋文書いて、出せずに自分の引き出しへしまう。

毎日そんな繰り返し。匠の技で恋をする。

それが俺の20年続けてきた仕事。

今日も君の背中をそっと見詰めては、定時通りに帰路につく。

[#twnovel](#)

## トイレの神さま

---

うちの旦那さん、トイレが長い。  
別にそれ程困ることもないのだけれど気になるの。  
どうしてそんなに長いのかしら。  
疑問に思ってたら、こんな噂を聞いた。  
トイレには女神様がいるんだって。しかもかなりの美人だって。  
つまりそういうことよね。

[#twnovel](#)

【結論】旦那はトイレで浮気をしている

## 発言の影響

---

「好きな人だっているのにそんな否定的な言い方酷い。よく知りもしないでもの言うな！」  
立場と影響を考えると叩かれた芸人は否定をやめた。

「嫌いな人だってもいるのにそんな肯定的な言い方酷い。よく知りもしないでもの言うな！」  
困った芸人は発言の最後に#twnovel を付けるようになった。

## 書棚

---

電子書籍化？そんなの困るわ。  
だって本って飾りでしょ？  
よさげな本を棚に並べて知性やセンスをドーピング。  
見せびらかせなきゃ意味ないわ。

### [#twnovel](#)

そんな貴方にお薦めです。電子書棚投影機。  
貴方がお持ちの電子書棚をお部屋の壁に映します。  
場所も全くとりません。  
今なら書棚着せ替え付き！

## ファボ

---

フォロワーさん同志が結婚した。

この二人、同じ呟きにファボくれる事が多かったから気が合うとは思ってたけど、まさか結婚までしちゃうなんて。

お祝いを呟くと「貴方のお陰です」ってリプがきた。

「貴方のへのファボがいつも被るからお互い気になったのがきっかけです」

やだ。私天使？

#twnovel

## 魔王の塔

---

勇者は魔王を倒し世界は平和を取り戻した。

あれから数年。

「当時勇者は3日かかりでこの塔を登ったそうですが今や30秒」

5日待ったけどね。展望台へ進む。

「ここが魔王最期の地です」

僕はその床を撫でた。

おかしいね、魔王は実は僕なのに。

真実は幻。僕と勇者の物語を誰も知らない。

[#twnovel](#)

## 鯉のぼり

---

私らしいの鯉のぼりってというのがあったから注文しちゃった。  
診断テスト受けると世界でひとつだけの鯉のぼりを作って貰えるの。  
素敵よね。皆でテストうけて、家族っていいなって思ったわ。

### [#twnovel](#)

「パパの鯉のぼり飛んでった」

「お隣の赤い鯉に寄り添って・・・あなた!？」

「違うんだ!」

## こいの狩人

---

この時期のミケは狩人だ。またとってきた。

「ミケ！鯉のぼりとっちゃダメ！」

鯉の足りないお宅を探しては返す。

ああ恥ずかしい。

### [#twnovel](#)

ご主人は解ってないにゃ。

折角美人の奥様のお宅を狙っているのにこいのひとつも食えないなんて。

人妻？そんなの関係ないにゃ。

鯉も恋も命がけにゃ。

月が綺麗ですね

---

月が綺麗ですね、と入力した。

今日は特別大きく明るい月らしい。

けれども雲が邪魔をして、噂の月は見えやしない。

僕は正直安堵してる。君と最後に見た月よりも綺麗な月とか困るから。

メール送信。届かない。

君のいないこの世界で、僕の空にはいつもいつも、あの日の月が浮かんでる。

[#twnovel](#)

## 最高の恋人

---

貴方は最高の恋人よ。

いなくなっても私貴方を永遠に忘れない。

[#twnovel](#)

「始めまして」

「あら緊張してる？貴方の事教えて」

「僕しっとりタイプです」

「ふふ私も。気が合いそう♡」

上の段のシャンプー&コンディショナーの出会いを、ボディーソープは黙って見てた。

(何人目のシャンプーだ?)

## 連休四天王

---

盆「GWがやられたようだ」

年末年始「ククッ。やつは連休四天王の中でも最弱...連休とも言えぬ面汚しよ」

盆&年末年始「連休四天王最強の貴方様に叶うものなどございませぬ。」

無職「く、ククッ。（俺連休だったのか）」

[#twnovel](#)

## クリーニング

---

週末のデートで彼をモノにしたい。  
とはいえ色々汚れた私。クリーニングが必要ね。  
「私を1人。ドライしみ抜き」

### [#twnovel](#)

デート当日ピカピカの私。  
カフェで談笑。不意に近づく彼の顔。  
沈黙そして「ゴメン急用」なんて事。  
鏡を見ると首筋にタグ。  
要洗淨な人だって、白状してるも同じじゃない。

## 雪の密室

---

雪に降られて通りがかりの屋敷を尋ねた。  
扉を開けると屋敷は無人で男が1人死んでいる。  
雪の上には僕の足跡。他には何も。  
ちょっと待って。雪の密室殺人事件？  
これじゃあまるで僕が犯人みたいじゃん。

[#twnovel](#)

「で、疑われたくなくて雪解け待って通報したと」

「はい」

「嘘付け逮捕じゃ！」

## あの子と彼女と僕

---

あの子は行ってしまった。

「来ちゃった」入れ替わるようにやって来た彼女は僕の部屋にいる。

出てけよって言ってもまるで聞かない。

僕を抱きしめて「いいでしょ？」って。

あの子が帰るのは二ヶ月は先。僕は彼女に唇を許した。

[#twnovel](#)

「あの子が連休？彼女が5月病？妄想いいから仕事してね」

## 五月病治療薬

---

五月病に効く薬を買った。

二種類の粉を混ぜて飲む。

「青い包を左手で持ちます」はい。

「赤い包を彼女に持たせます」はい？

とりあえず読んでみよう。

「お互いに飲ませあって将来の約束をします」ああはい。

連休明けを乗り切れそうな手順ではあるね。

で、彼女の包はどこですか？

[#twnovel](#)

## 星流し

---

僕の仕事は星流し。

職権乱用、可愛いあの子にざかざか流す。

ある日あの子は呟いた。

「彼の上にも星が沢山降りますように」

ちょっと待て。

神様からも「叶えておいて」と指令が下る。

これは仕事。僕は降らすよ涙を飲んで。

降らす？ そうだよ願いは降らす。

頭上の隕石にお気を付け下さい。

#twnovel

## 甘味

---

巷では流し素麺が大人気だ。

うちもちょっとやってみないか？

甘味処も営業努力が必要だ。流しスイーツってんだ。

具体的には例えばな、流しかき氷。シロップの海に浮かぶ冰山！ダメ？

じゃ流しプリンは？カラメルの、ダメ？

うーんじゃ、流し心太。

あ、それはあり？乙女心わっかんねーな。

[#twnovel](#)

## 消えた話

---

消えてしまったお話は、記憶の海へと還ってく。

海の中では魚となって、尾びれ背びれを付けて待つ。

いつかは再び語られたい。

もしも貴方が糸を垂れたら、餌に見合った魚が釣れる。

注意すべきは1つだけ。

きときとの魚は貴方の猫も大好きだから、盗られないよう気をつけて。

[#twnovel](#)

## アプリ

---

位置情報アプリに自分探しと名付けた。

少しだけ売れた。

幾つかの質問に答えると世界地図のどこかを適当に表示するアプリに同じく自分探しと名付けた

。

バカ売れした。

本当に行った人からは「自分が見つかりました」なんて報告も多数。

嘘から出たまことに名前変えたら...売れなそうだ。

[#twnovel](#)

## 孫子

---

俺はこの国の王。

やめろ。俺にはこの国を守る義務がある。

それなのにお前は。

解せぬ。何故王たる俺に逆らうのだ。

逃げる俺を抱き、揺らし、寝かしつける。許せぬ。

いいか、孫子の代まで許しはせぬぞ。こてっ。

### [#twnovel](#)

「やっと寝た。赤ちゃんって愚かよね。眠いなら寝ればいいのに」  
ばぶー。

## お試し

---

大事な事であればある程、お試しから始めるのがお互いの為だし責任ある態度だと思う。  
君ともお試しから始めたい。（って言えばやる事やって捨ててもOK俺天才）

### [#twnovel](#)

「そうね、じゃあ分身を宜しく」  
彼女はそう言うと彼女1/10スケールを手渡した。  
やる事できないってかこいつできる！

# 夏

---

夏の箱から夏物を取り出す。

水着に花火、プール、蚊取り線香、風鈴にビール。

向日葵、お祭りのざわめき、入道雲に日差しに恋。夏の恋。

一気に広がる夏の空気。これで解禁。

さあさあ、儂くも逞しく切なくも強い、

太陽の季節を召し上がれ。

お約束のあの音楽でも聴きながら。

夏が来た。

[#twnovel](#)

## 産業スパイ

---

僕の企画を他社が発表している。  
くそう。あの強い頭痛の日か。  
脳に産業スパイが侵入したのだ。  
未だ頭に眠る企画は死守せねば。  
僕は箱に入り外から鍵をかけさせた。  
これで安心。

### [#twnovel](#)

「3, 2, 1 はい！」華々しく僕登場。  
スパイが笑う。  
「鳩も出ます」  
僕の右耳から企画が飛んでいった。

## 流出

---

ツイッターパスワード流出？

まーでも関係ないよね。リアルとネット切り離してるし。

って何このリプの嵐。

「信じてたのにガッカリだ」「嘘つき」

辿ってみると

「実は40台のおっさんです。女子高生なわけがwww」

って覚えのないツイート。

これが流出の被害なの？

ま、でもその通りだ。

[#twnovel](#)

## 巡る季節

---

最後のピースをはめ込むと、夏が完成した。

青い海と入道雲が殺人的に難しかった。

けれどようやく夏を始められる。

鳴き出す蝉、突き刺す太陽。

「さてと」パズルを掲げるや否や、早速次へと取りかかる。

次は秋。美しいけど色合的に難しい。

四季を正しく巡らす仕事もこれで結構大変だ。

[#twnovel](#)

## 大人世界

---

大人が子供のままでいることが正当化された。

ゲームは大人の物。エロなしでも18禁だ子供は帰れ。

遊園地は大人の物。うるさい子供は帰れ。

お子様ランチは大人の物。本当の子供がお子様とか偉そう帰れ。

どこへ行っても帰れと言われ、子供達は帰っていく。

そして誰もいなくなった。

[#twnovel](#)

## 同じ空

---

あなたの住む街は嵐。

大丈夫かな。心配だけど、昨日の喧嘩で電話しづらい。

私の街は抜けるような青空で、この空が、あなたの空と繋がっているのが不思議なくらい。

私とあなた。考え方はそれぞれだけど、心は繋がっているのかな。

それでも電話は難しいから、この青空をメールしよう。

[#twnovel](#)

すくう

---

すくいませんか？

金魚すくいか。

すくわれないのは金魚ばかりじゃありません。

水槽の中には浴衣姿の女の子。

どうぞお好きにお救い下さい。

いいのこれ？いやでも据え膳いただきます。

僕はこの子に、決めたっ！

[#twnovel](#)

気が付くと知らぬ場所。傍らには女の子。

「私を救う物語を始めましょう」

## 青虫

---

庭の青虫が話しかけてきた。見事な擬態だった。

「見つかる気がしないわ」と誇らしげだった。

仲間が蝶になっても、青虫は青虫だった。

「今が楽しいの」青虫に悪びれた様子など無かった。

喰われぬまま秋を越えた。

そして冬。

雪の頃、青虫はひっそりと凍死した。

青虫のままで。

[#twnovel](#)

## 天国と地獄

---

僕は死んでしまった。

一面に咲き乱れる色とりどりの花々。

蝶が舞う。風が吹く。花が散る。ああ、美しきパラダイス。

[#twnovel](#)

「ちゃんと花びら集めなさいよね」

艶っぽい虎模様のビキニの女が言う。

「え？」「散った花全部掃除するのよ」

細いヒールで踏まれた。

ここは天国ですか？地獄ですか？

## 悪い虫

---

可愛い娘に悪い虫が付かないよう、虫除けスプレーをした。

それでも多少の虫は付く。

「悪い虫じゃないならいいじゃない。」

妻は言う。解ってないな。

悪くい虫の方が有害なのだ。

悪い虫なら払っておけばそれでいい。

賢いあの子を奪うであろう、悪くない虫は、叩き潰しておくべきだろ？

[#twnovel](#)

## 看護の日

---

今日は看護の日。

だから病院へは行っちゃいけない。

今日は看護師が王様だ。看護師様には敬語を使え。

看護師様から話しかけられた時以外発声するな。

質問なんてもっての他だ。横柄だって目を瞑れ。

何？今日だけならば可愛いもんだ？

ああそうだね。

確かに医者はいつでもそうかもね。

[#twnovel](#)

## 当たり付き

---

卵を割るとひよこが出てきた。

小さいひよこのマスコット。

どうやらこれは「当たり」らしい。当たり付き卵。何だかちょっと嬉しいね。

2個目を割った。ひよこ。

3個目ひよこ。

何個割ってもひよこが出てくる。

これで10個目最後の卵。

果たして俺は目玉焼きを食べられるのであろうか。

[#twnovel](#)

## ハートの味

---

「先輩のハート頂きます」って後輩がふざけるから「召し上がれ」って差し出した。  
後輩は瞳を輝かせて「頂きます」って瓶を取り出す。

「なんで醤油」「だって私へのハートなんてきっと無味ですもん」「味もみないで醤油かける子は嫌い」

渋々何もかけず一口。後輩の顔が綻ぶ。

「甘い！」

[#twonovel](#)

## 母の日

---

「母の日おめでとう」子供にとってお祝い事はみんなおめでとう。  
ありがとうって言えたとしても「母の日ありがとう」くらいで、お母さんありがとうはなかなか出ない。

「でもパパが言ってたもんおめでとうって」パパが？

「今年もりこんなく母の日を迎えられてよかっためでたいって。」

[#twnovel](#)

## 風船

---

風船を飛ばそう。

夢や希望を沢山詰めて。

風船を飛ばそう。

空高く。空高く。色とりどりの風船。

今、空へと吸い込まれる。

[#twnovel](#)

「あれ飛ばない」「俺のもだ」

飛んでいく子供達の風船。

飛ばずに残る大人達の風船。

「ちゃんと夢や希望、入れましたか？」

曖昧に微笑んで空を見上げた。

## ビフォーアフター

---

上司の助言通り書類を直した。

「何という事でしょう」上司が語る。

「難解で誤解だけを与えていた表が優しく生まれ変わりました」

「窮屈で眼に負担をかけていた文章。これでもう眼精疲労の心配もありません」

私は溜息をつき「さすが書類の演出家」お約束通り誉める。

もうやだこの会社。

[#twnovel](#)

## 母の日②

---

「母の日だから乾杯」「母の日だからケーキだよ」  
玩具や紙で工夫して、精一杯お祝いしようとする娘。  
母の日と誕生日が混ざってる。  
母親としての誕生日はあなたの誕生日なんだけど、そんなの難しいものね。  
いいわあなたが望む限り、母の日はお母さんの誕生日。  
産んでくれて有り難う。

[#twnovel](#)

## おむすびころりん

---

おにぎりが転がって海に落ちた。

おにぎりが言う。

「帰してくれて有り難う」

鰹節、海苔、塩が感謝する。

「私は海なんか」

どうやらご飯は不満らしい。

「お前 それでも嫁か？」 「だって」 「ぺしっ」 「ひどい。実家に帰らせていただきます」

あ、ご飯帰ってきた。

「秋田へお願い」

秋田小町？

[#twnovel](#)

## お題「空」 #twnvday

---

空から落ちてくる物を拾ってる。

雨は勿論、雹や隕石、女の子。落とし主さえ現れなければ拾った人の物になる。

これまで誰も現れず、全てが地球の物になった。

だけど最近「還して下さい」落とし主が現れる。

お陰で地上に雨が降らない。落とし主様。ねえ、神様。

この気紛れは何故ですか？

#twnvday

失恋した。空を見上げた。

こんなでも綺麗な青空。

誰かが座った。隣に君だ。

「残念だったね」知ってるんだ。

「どんな気分？」酷い質問。

「悲しくて空になった」

「いいね」カラっぽのどこが。

「ソラって事は違う色にもなれるでしょ」不自然なこじつけだな。

「元気だしなよ」有り難う。

[#twnvday](#)

空の色を変えるだけの簡単なお仕事です。

給料も休みもいい。

試験を受けるようにいわれ早速訪ねる。

現場では男達が空に向かって叫んでる。

「すきー」「結婚してー」

お前も空を褒めてみろと言われ

「透き通るように綺麗だ」

と叫んだら空は赤く染まった。

就職決定。

俺は毎日空を褒めている。

[#twnvday](#)

空色のクレヨンがあの子は不満。

空の色ってそんなじゃないの。青とかオレンジ、黄色にピンク。

とにかく綺麗に変わっていくの。

だからこんなの違うもの。

「嘘つくな」ってみんなが疑う。  
今日の空はいつも通り、クレヨンの「空色」。  
だけどね僕は信じたい。君の空を探しに行こう。

[#twnvday](#)

## 東京

---

君は最近東京行った？

すれ違いざま美女が訊く。

行ったらんよと答えると、僕の耳に唇を寄せた。

実は東京ってもうないの。TVがネットの後追いだって思ったことはないかしら。

ネットで作った妄想を集めてTVが東京を造るのよ。

面白い話だ。

TVと千鳥足の君、僕はどちらを信じよう。

[#twnovel](#)

空から恋石が落ちて来た。

[#twnvday](#)

恋石が7個集まると恋が叶う。これで7個。長かった。

「集まったよ」妻に報告。妻とは恋石が集まるまでの約束で結婚した。

「そう良かったね」と笑う妻。

さあ、恋石。僕の恋を叶えておくれ。

僕の恋。

「僕、君と居たいなあ」

泣き出す妻を抱きしめる僕。

空から恋石が落ちてきた。

[#twnvday](#)

恋石は失われた恋の塊。

それが空から降るなんて。

普通は地面に落ちてるものだ。

そこらの石と同じように。

それにあの石かなり大きい。

想いの強さが石の大きさ。

この大きさってどれくらい。

落ちてきたのは月の恋石。

地球への想いで地上は広く傷ついた。

空から恋石が落ちてきた。

[#twnvday](#)

我々宇宙人は、本日地球を征服します。

力で制圧するなんて、愚かな事は致しません。

もっと強くて深い契約。それは色恋。

この恋石が当たった者は我らに恋をするのです。

そして全てを捧げるでしょう。

自分の命や地球さえ。

行け恋石！

甘い夢に、地球よ眠れ。

## 仕事

---

みんな私のこと好きなんだと思ってた。

みんな私を奪い合ったし、誰より側にいてくれた。

けれども嫌われてたなんて。金目当てって、ハッキリ言われた。

君のためなら何でもするって。あの告白は嘘だった？

#twnovel

「仕事の実家に帰って行きます。おっと引き戻した？必要だけど嫌いどうする！」

## 幸運

---

茶柱立てて彼の幸運を印象づける。

天気がいい、ネクタイの結び目が綺麗。

どうでもいい事を並べ立てて「今日はいい事ありますよ」って。

ささやかな準備は終わった。

彼が席を立つのを待っていると、みんな帰って二人きり。

「帰らないんですか？」「いい事起こるらしいから待ってるんだ」

[#twnovel](#)

## かけーる薬

---

#twnovel が書けない。

悩む僕に魔女が薬をさし出した。

「これを飲むと湯水のように話が湧くよ」

何それ飲む飲む。

一口飲んだ。普通に書けた。ゴクゴク飲んだ。傑作が書けた。

もしや量と質が比例？

さてどう飲もう。薄めて沢山話を書くか、濃いまま少しの傑作書くか。

君ならどちらを選びますか？

## 効果線

---

空気を読め読め言ってるあなた、読まれる努力は大丈夫？

「でもお気持ちを出すのって恥ずかしい。」

そんなあなたにこの商品。よめーる効果線！

そう、漫画の 効果線のように、あなたの背後に気持ちをわかりやすく表します。

これで恋人もできちゃうかも？

よめーる効果線、好評発売中！

[#twnovel](#)

## 燃えないゴミ

---

「燃えないゴミが増えましたね」「処理が間に合いません」「少しは減らして欲しいのですが」

[#twnovel](#)

魂は分別処理される。

結婚願望、彼への未練、親友への不信感、生きる事への無力感。

燃えないゴミで溢れかえる天。

埋め立て地の端の方、今まさに溢れ落ちようとする絶望に誰も気づかない。

## 行進

---

どうして歩むの？行進だから。

前を向いて。軽やかに。

進まなければ行進じゃない。

だから進むの。だから歩むの。

綺麗な衣装。綺麗な音楽。

お客が一人もいなかったって、そんなの全然気にならない。

どこへ行くの？どこまでも。

進まなければ行進じゃない。

行進の為に行進は続く。永遠に。

[#twnovel](#)

## 迷路

---

大きな迷路に放り込まれた。  
どうにかして抜け出そうと協力しあった。  
大きな塔を作って、出口の場所を確かめた。  
そうしてわかったことは、出口などないってこと。  
僕らはここにいるしかないのだ。  
目的を失った僕ら。  
平和に暮らしていくために、戦争が始まる。

#twnovel

## 金環食

---

金環食一緒に見たい。誘われ続けたけれど断った。研究が大詰めなのだ。

「研究研究ってもう知らない」

怒らせてしまった。もし別れたらこの研究は無駄になる。

三百年後の金環食を、君と見に行く時間旅行。それが僕の研究だから。

それにしてもこんなに拘るなんて。

好きなんだね、金環食。

[#twnovel](#)

## 鳩が出ます

---

くだらない番組をぼんやりと眺める。

TVは今日も平和だ。

画面の中では手品師が、その象徴たる鳩を出している。

シルクハットから鳩。旧式だな。

と、思っていたら、出続ける鳩。鳩、鳩、鳩。

画面は鳩で埋め尽くされ、そして。

「スタッフがおいしくいただきました」

何を？平和って脆い。

[#twnovel](#)

## 図書館

---

図書館に自分の本を置きたい。  
その夢を叶えるべく、書きかけの小説を書棚に忍ばせた。  
図書館に行っては続きを書く。背徳感がたまらない。  
そんなある日、知らない続きが書いてあった。  
驚いたけれど嬉しくて、僕は更に続きを書く。  
お次は挿絵が付けられた。  
どなたか色を塗りませんか？

[#twnovel](#)

# 鬼

---

最初は小さな声だった。

「それでいいのか」と僕を惑わせた。

声はどんどん大きくなった。

「信じるな」

僕の胸の中に何かが巣くっている。

[#twnovel](#)

「それは疑心暗鬼です」医師はそう言うと、口の中からひょいと子鬼ををつまみ出す。

僕が生んで僕が育てた。

撫でると嬉しそうに目を細めて消えた。

## 夏祭り

---

星を砕いてザラメにする。

今日はお祭り。きらきらの綿菓子を作る。

天の河で捕まえた金の魚を水槽に放ち、林檎の代わりに隕石をコーティング。

我々は模倣する。

消滅したあの惑星を偲んで祭りを擬える。

今年の手本は日本という地域。

美しいね、美しいね。

口々に言い合って、地球を吊う。

[#twnovel](#)

## 金環日食大作戦

---

黒い眼鏡を配る。

金環日食のあの時間がチャンスだ。

作戦の成功を祈って、黒い眼鏡を配る。

さあ、いよいよ決行だ。

[#twnovel](#)

人々の眼に、黒い眼鏡を確かめてから、僕ら旅立つ。

従い続ける人生からの解放。

「影」の行列が空へと吸い込まれる。

黒い眼鏡越し、目の前を通る影に誰も気づかない。

## 太陽を喰う

---

お日様が月に喰われるって人間は大騒ぎ。

一体どういう心境の変化？

日が月に喰われることを、人間はお嫌いと思ってた。

ついさっきだって喰われてたけど、そういえば今日はため息が少ない。

不思議。

日曜が月曜に喰われるの、いつもあんなに悲しむのにな。

[#twnovel](#)

太陽が隠れた。ミケは眠る。

## 太陽のリング

---

「指輪をあげる」金環日食がピークに達した頃、  
彼が空から摘むような仕草で指輪を取り出した。  
その後の日食なんか見てらんない。金色の指輪。  
付き合ってね。彼が友達から恋人に変わる。

[#twnovel](#)

「臨時ニュースをお知らせします。先程太陽が縮んだとの発表がありました」  
まさか、ね？

## カンペ

---

僕の人生にカンペ係が配属された。

僕が困ると、カンペを出して助けてくれる。

顔はわかるけど名前がうる覚えの時とか、漢字が正確にわからなくなった時も便利だ。

最近では好きになった女の子の性格や趣味を教えてくれた。

だけど「この恋うまくいかない」ってカンペは見たくなかったな。

[#twnovel](#)

## 執拗な彼

---

彼にも言い分はあった。

「そんな気のある素振りで誘ってそりゃないよ」って。

誘った訳じゃない。弱った私に彼がつけ込んだのだ。

彼のせいで食事も喉を通らない。

拒んでも私を苦しめる。

もう嫌。誰か助けて。

[#twnovel](#)

「風邪ですね」

医師の診断。内服薬が処方された。

これでようやくお別れよ。

## スカイツリー

---

スカイツリー成功後、地上には巨大な塔が次々建てられた。  
乱立する塔は高さを増し、宇宙に届かんとする勢いだ。  
その様子を満足そうに見守る者達がいる。

[#twnovel](#)

「我々の指導の賜とも知らず人間が競い合っている」

「そろそろ刈り入れ時か？」

建築資材を目的に、宇宙人は地上に塔を育てる。

## 壊れたロボット

---

壊れたロボットは収容される。  
ここで修理点検されて、再び前線へと送られる。  
なんて穏やかな暮らし。  
そもそもこの戦いはなんのためか。  
ロボットの幸せのためだ。  
幸せってなんだろう。  
戦いのないこの日々とは違うものか。  
癒えたロボットは前線へ帰る。  
再び壊れることを夢見て戦う。

[#twnovel](#)

## パンツ

---

「知ってるか？スカイツリーの展望台、透明の床があるんだぜ」

「マジすか。パンツ見え放題すね」

「合法パンツだ」

「ケシカランすね」

「確認だ」

### [#twnovel](#)

「見えないす」

「雨だしな」

「（´・ω・`）」

「けどな、あそこに確かにみえてるパンツがあるんだ」

「うお、なんか見えてきた気が！」

## 早送り巻き戻し

---

人生の早送り巻き戻し装置ができた。  
老人の多数は若者に戻る。  
若者の多数は早送りで人生を終えた。  
残された元老人達。働こうにも仕事はない。  
二度目の人生だしと結婚しない。  
馬鹿にした若者達と同じ人生。  
ようやく知った閉塞感に、とうとう人生を早送り。  
そして誰もいなくなった。

#twnovel

## ラブレターの日

---

「昔は『恋文』といって紙に気持ちを記して伝えるという手段もありました」  
ここテストでますよと強調する。

「ありえない」「証拠になるよ」「どんな責任おわされるか」  
恋愛の終わりすら裁判沙汰な時代、どちらから恋愛を始めたかなんてははっきりさせないのが通  
常だった。  
時代は変わる。

[#twnovel](#)

毎日ラブレターが届く。  
「良い天気ですね」とか「昼飯がおいしい」とか。  
取るに足りない手紙な上に差出人の名前がない。  
けれど解るの誰からか。  
この手紙、いつも変わった切手付き。  
貴方の大事な切手帳、切手が減っているわよね？  
知らない振りをしてあげる。  
だからずっと、下さいね。

[#twnovel](#)

貴方が落としたのは金の恋文ですか？銀の恋文ですか？  
泉の女神は俺に問う。  
「違うよ紙の恋文だ」  
そう答えると  
「貴方は正直者ですね。褒美に全てを与えましょう」  
女神様。あんた、勘違いしてないか。  
俺が欲しいのはあんたの返事。  
あんたの心が欲しいんだ。  
「全て」にそれは入るのか？

[#twnovel](#)

## キスの日

---

キスの味は作れる！

ってサプリが発売された。キスの味。

男子の幻想を潰すのって女子的にどうかと思う。

でもありきたりな味も嫌。私らしさも重要よね。

キスの味が選べない。私のキスってどんな味？

[#twnovel](#)

悩む私に彼は笑う。

「何回もすればいいじゃない」

サプリとキス、繰り返す私達。

これねキス味なの。

クラスの女子がクッキーを配る。

一口食べた。すごいざくざくで口にさわる。

甘くも苦くもないし、まずいし、とりわけキスって感じでも。

「こ、これ再現率高くね？」「そ、そうだなまんまだな」

女子の目がキラんと光る。

まんまじゃねえよ。まんまと罠にはまってるよ。

[#twnovel](#)

## 足跡

---

いつも何かに追われてる。

振り向いても誰もいない。けれど確実に追われていて、安らかな日々に出会えない。

背後から聞こえる足音。立ち止まるのは怖いけれど、意を決して立ち止まる。

[#twnovel](#)

ピタ。足音が止んだ。

後ろには僕の足跡。立ち止まる僕を足跡は越えて行く。

僕はそれを、見送った。

## ポニーテール白書

---

僕の触れた物達が名前通りの姿をとるようになった。

金魚草には金魚が咲いて、

蝶々結びは蝶となって空を舞う。

きつねうどんの中には狐がいい湯だになって浸かっている。

僕の隣、可愛い君のポニーテールに触れると一体どうなるか。

好奇心と愛が戦う。

揺れては誘うポニーテール。

僕は。

[#twnovel](#)

## 朝ツイ

---

7時。#twnovel の顔ぶれはいつもだいたい同じ感じ。

投稿順までほとんど同じで時計みたいな気がしてた。

けれど最近、書かない誰かがいるみたい。

ある日出来た空き地に、何があった思い出せないみたいな気持ちでいたら、懐かしいアイコン。

ああそう、この人。

おはよう。また一緒に朝を刻もう。

## 約束

---

妻の死後、庭に桜を植えた。

妻の名前が「さくら」なのだ。

いつか忘れてしまわぬように、綺麗な桜の木を植えた。

僕は生きる。妻も自分も全てを忘れ、生きている。

[#twnovel](#)

庭の桜が咲いた。

「綺麗な桜だ」

時々でいいから綺麗って言ってくれるなら結婚してあげます。

そう言ったのは誰だったか。

## みんなのもの

---

所有をハッキリ表して貰えなかった時点でなんとなく解ってた。

私は色々な男を渡り歩く。

僕のものだって責任持てる程、貴方大人じゃない。

誰にも愛されない私は嫌い。だから私、みんなの物でいい。

[#twnovel](#)

「ってやさぐれると教育上よくないので、お子さんの持ち物には名前を付けて下さい」

## ふるふる

---

空から言葉が降ってきた。

次々に振ってくる言葉に、逃げ惑う者、隠れる者、受け止める者、潰される者。

君は何をしているの？空をじっと見上げているね。

そして、手を伸ばして掴み取る。

「大好き」を僕に投げつけた。

可愛い割に意外と重くて嬉しくなる。

僕も空を見上げる。

さあ、こい。

[#twnovel](#)

## 温泉ガール

---

温泉で毎日見かける君に、僕は秘かに片思い。

ラムネを飲む君。目があった。

ずっと君が好きでした。うっかり告げたら君は笑ってラムネをくれた。

温泉の匂いに僕は酔う。

#twnovel

「困るよ」温泉のおじさんが言う。

「この子うちの温泉の素だ。連れてくなら毎日通ってよ？」

癒し系温泉彼女。

## スパイダー

---

また壊された。

蜘蛛は8つの手足を組んで、じっと思考を巡らせる。

こんな日々でよいものか。

壊されない巣を作りたい。技術はある。

これならすぐには壊せまい。

[#twnovel](#)

玄関に今日も蜘蛛の巣。でもこれ丈夫。

毎日払えばいいやって、お情けかけてたけど、これじゃーな。

ぶち。

さらば。

## 朝焼け列車

---

その列車は夜明け前に走り出し、最初の駅で朝日を浴びる。  
けれどその日は出発駅でトラブル。時間厳守が売りの列車は1時間も遅れた。

### [#twnovel](#)

「遅延の苦情？」

「うん...お前を信じて顔だしたら天変地異扱いだ」

天？

そう言えばその日、日の出が1時間遅れた理由、まだ解明されてないよね？

## 赤い糸係

---

赤い糸係は困っていた。

最近仕事の発注が少ない。赤い糸を結ぶ仕事は出来高制だ。

しかも間違えると責任を問われ、賠償金を請求される。

破局も多いしもうやめてしまおうか。

赤い糸係は涙を浮かべ、そして首を振った。

それは出来ない。

運命を結ぶ奇跡を、誰よりも誇りに思っているから。

[#twnovel](#)

## 風車

---

風車は風を愛していた。

頬を撫でる優しい風。気持ちいいだろ？囁く声。

愛しているから言えなかった。最近風の力が衰えてきたことを。

弱まり続ける風。衰えを気づかせたくない。

残酷に傷つけないように、風車は回る。回る。回る。

風が止まった。止まってもなお、回り続ける風車。

[#twnovel](#)

## 世界の果て

---

世界の果てを探しに行こう。彼が誘う。

それが何を意味するものか、幼さ故に気づけずに。

世界の果て？そんなの無いわ。

教えてなんてあげないけれど。

ないものを探すの。それってずっと側にいてって事なのよ。

私は約束を手に入れた。

砂場のお山のトンネル越しに私は彼の手をとった。

「うん！」

[#書き出し](#)

## 角砂糖

---

女の子は角砂糖でできているってのは有名な話だ。  
女の子の角に頭ぶつけて死んじゃえって言葉もあるよな。  
玉砕覚悟で告白するって事だってお前告白したいのか。  
裏技教えてやるよ。女の子を温めろ。  
そしたら溶けて角が消えるからな、頭ぶつける心配もない。  
温め方？それくらい自分で考えな。

[#書き出し](#)

## ヒモ

---

「そのパンツのヒモみたいな態度はなんだ！」

何その文句。

「前から思ってた」

彼と私は会社の同僚。

「仕事してますって振りしていつも誘いやがって」

そこまで言うとはッとし黙り込む。

「誘われたの？」「いやあの」「ほどいてみたい的な？」「はい。いやあの」  
素敵な据え膳、いただきます。

[#書き出し](#)

続く

---

これから嘘をつきます。ご注意ください。

妻はそう言うと

「どうして何回言ってもわかんないかな。

使ったら片付けて。

電気ちゃんと消して。メールには返信する。

真人間になって」

と続けた。

ムカツ。

「やだ嘘って言ったでしょ？あといびきもやめて」

ムカツ。

「やだ嘘って...」

いつまで続くの。

[#書き出し](#)

## 愛してるから

---

「愛しているから、コーヒーをいれてよ」頼みごとをするとき、彼はいつも愛を囁く。  
結婚当初から変わらない彼の癖。  
最初は素敵だと思っていた。けれど段々鬱陶しくなっていたの。  
結婚3年目。会話も減ってきたある日、  
「愛しているから、印鑑押して」  
離婚届に最後の愛で印を押す。

[#書き出し](#)

## ラッパのマーク

---

最近、正露丸が美味しくなってきた。  
企業努力の賜らしい。  
カラフルで大人気。  
フリスクか正露丸かって勢いだ。  
贈り物にも正露丸。ご当地正露丸に期間限定正露丸。  
人気の凄さに薬効を捨てた。  
大量摂取で身体に影響したら困るからとの心遣い。  
菓子となった正露丸。  
激しい競争に姿を消した。

[#書き出し](#)

## 体温

---

あなたの体温を覚えてたくて抱きついた右腕。

ピ36度5分。

人の要素を取り込む。

あなたは色々教えてくれる。「愛する心」以外は全て。愛する心が解らない。

仕組や作用の知識はあるのに。

「ない人なんて沢山いるよ」

解らなくても大丈夫。あなたは笑う。

そして、教えられなくてゴメンと呟いた。

[#書き出し](#)

## 虹の橋

---

実家の猫が亡くなりました。

19年間家族を癒し続けてくれたかわいいやつでした。

実家を出てかなり経ちますがやはり寂しいですね。

愛された猫は虹の橋の袂に行くといいますね。

だからあの子もそうでしょう。

色が一色増えたくらいに、虹がきっと、今より美しく見えるでしょうね。

[#書き出し](#)

ご冥福を

## 背伸び

---

一生懸命つま先立ちしてもどうしても見えなくて、悔しくて涙が出る。  
年上に恋したら背伸びするしかないけれど、それでも見えない貴方の気持ち。  
差し出されるハンカチ。子供だなんて余裕ね。  
いいわ。子供の本気をみせてあげる。  
ネクタイを引っ張って唇に噛みつく。きっと貴方を征服するわ。

[#書き出し](#)

## 脳内会議

---

「脳内会議を始めます」

「待って！」

「面倒なのがきたな」

「私抜きで会議するなんて酷い。参加する！」

「今日は脳内だけの会議。お前脳内にいないでしょ」

「どうせ私には居場所なんかないわ。仲間だと思ってたのに・・・」

「感情的になんなよ」

「シクシク」

「あー心ほんっとめんどくさっ」

[#書き出し](#)

## 四角い空

---

空を見上げてパシャリ、切り取った空は四角い形をしていた。

フレームに閉じこめた空に写りこんだ小鳥。

逃れようとしては檻に阻まれる。

美しい悲鳴。集まった仲間の鳥達で、埋め尽くされた僕の窓辺。

失われた本物の空。

けれど僕は還さない。

何を失ったとしても、手放したくない君の歌声。

[#書き出し](#)

## 悠長な眠り

---

自分が悠長に眠るのを、あの子が許さない。  
百年眠った後に私は彼と結婚しちゃうから。  
あの子はそれを変える為、時間を超えてやって来た。  
あの手この手で目覚めを誘う。  
でもこの呪いはあの子の愛より強いみたい。  
困ったあの子はなんと魔女に弟子入りしたわ。  
更に百年睡眠延長？やーめーてー。

[#書き出し](#)

## 抜け殻

---

君の抜け殻を見つめていた。  
美しい君。僕を酔わせて夢へと誘う。  
高鳴る心臓。震える指先。  
僕をこんな気持ちにさせて、幻のように消え去った。  
抜け殻を撫でる。なめらかな肢体。  
確かにここに君はいた。

### #書き出し

飲み干したワインの瓶。  
君の、君達の抜け殻をもっと並べたい。  
「酒だ酒持ってこーうい」

無茶言うな。こんな甘ったるいものを、どうやって食べるってんだ。

食わず嫌いはいけないって？

いやあの、決して嫌いというわけでは。なんていうか、あの、初めてなので。

[#書き出し](#)

御馳走された唇は想像以上に甘かった。

「辛党の君でも大丈夫な後味もあるかもね」って。

なにそれ俺ってどうなるの？

## 戦うお姫様

---

お姫様だって戦わなくちゃ。

王子様っていつも気紛れ。すぐに惚れるし変態だしね。

心を磨いて女を磨いて、ぴっと凛々しく逞しく。

そしたらある日王子を差し置き、私の前に、あの子は硝子の靴を置いた。

お姫様は戦っているの。あの子もきっと。

ならば私は受けて立つわ。パリンと靴を叩き割る。

[#書き出し](#)

忘れたことなんてなかった。忘れたふりをしていただけで。

息子とその嫁。二人の孫達。

名前や誕生日まで諳んじることができるけれど、争わないために選んだ、忘れたふり。

これからもずっと。

### #書き出し

「この子どもこの猫かしら」

「人懐っこいし飼い猫だと思うんだけど」

失敬な吾輩は人である。

にゃあ。

## 目覚めよ

---

目覚めるのだ、選ばれし者よ。お前に眠る血を思い出せ。

ゴーンゴーン。鐘の音？

そう俺は血を引いて。誰の？そう俺は...

### [#書き出し](#)

「選ばれし者、寝起き悪いなあ。遅刻だぞー」

フライパンを僕の耳元で鳴らすオカン。

「オカンの血引いてるからだよ...」

「あんたのせいで今日も目玉焼き作れなかったわ」

## 生き物

---

きみのだいぎらいな生き物をきみの目の前で貪り食ってそっと、微笑んでみる。  
笑い返す君。

「汚らわしい生き物め滅びるがいい。あの日の辱めは忘れないわ」  
串刺しにされ、既に事切れた生き物を睨め回す冷酷な瞳。

### #書き出し

「何や知らんけど出てって？」  
追い出された。焼鳥屋出入り禁止これで5件目。

## 真相

---

あの殺人事件の真相を知るのはもう俺しかいない。

俺とヤツだけが知っている真相。ヤツが警察に話す前に死んだのは想定外だった。

的外れな捜査。違うんだ。犯人は犯人は...いないんだ。

密室殺人事件として捜査されてるけど俺のうっかり死デス。

暢気に通夜なんか出席してる場合じゃないのに。

[#書き出し](#)

## 伝えたい言葉

---

伝えたい文字はそっと消去。

「好きです」「キスして」「会いたい」

替わりに違う文字を入力。

「大丈夫」「頑張る」「何でもない」

だって君に、迷惑も心配もかけたくないの。

だからいつでも笑ってるんだ。

あ、返信。

「会いに行ってもいいですか」

消した文字まで送信された？

[#書き出し](#) [#twnovel](#)

## 手首から赤い糸

---

切り裂いた手首から、赤い糸が顔を出す。

どんどん伸びる。糸は一体どこへ行くの？

私は糸を追いかけた。

そもそも手首を切った原因は失恋。

もう恋なんかできないって、そう思ってたのに。

糸が止まった。

「大丈夫ですか？」知らない男が問いかける。

うんイケメン。

私は倒れ込んだ。生きてやる。

[#書き出し](#)

## 呪文

---

それはまるで、一種の呪いのようだ。  
可愛くなーれ。母はいつもそんな呪文を繰り返し唱えた。  
可愛くなーれ。私も呪文を繰り返し唱えてた。  
誰もが可愛いと誉める私。  
なのに彼だけ「お前本当に可愛くない」って。  
可愛いって言わせたい。彼にとっての可愛いって？  
心の可愛さなんか私は知らない。

[#書き出し](#)

## ひとりのおへや

---

部屋をひとつあげるって。

お姉さんみたいで嬉しかった。

けれど独りで眠っていると、なんだか恐くて淋しくて。

泣いていたなら頭上をウサギが駆け抜けた。

「ああ忙しい」

時計を見ながら走ってく。ちょっと待って。

追いかけたなら、さあ物語の幕開けよ。

ひとりじゃないと見られぬ夢もあるみたい。

[#書き出し](#)

## ペチュニア

---

私はペチュニアが嫌いだ。

朝顔の振りして「代わりでいいの」って。

強くてあんまり手も掛からなくて、朝顔よりも愛されたりね。

花言葉、心が和むは伊達じゃない。

朝顔の事も愛してよ。はかない恋って花言葉。守らなくてもいいじゃない？

あ、やだこれって花の話よ。私の恋とは関係ないわ。

[#書き出し](#)

## 君の傘

---

雨粒が傘を伝って、僕の靴を濡らす。

バスはまだやってこない。

初めて会った君が差し出した傘に僕は有頂天だった。

可愛い君。

僕の孤独な人生に咲いた一輪の花、いや傘。

温かい。君の優しさに守られてる気分。

僕は君を、君を。

#書き出し

どんぐりの小包残してトトロは消えた。

あの傘返ってくるのかな？

## 絵

---

絵画とはただ見るだけのものではない。

住める絵画が大人気だ。

「この絵に住みたいんです」それは訳あり物件だった。

「その物件、幽霊がでるとの噂が」

値段に惹かれ入居して即退去という例が続いてた。

「いいんです」

契約は成立した。

[#書き出し](#)

幽霊は彼女だった。

彼女の描いた絵に、共に住める幸せ。

## 合鍵

---

どうやら鍵をなくしたようだ。

しかも自分んちのじゃない。彼女んちのだ。

困っていると背後に気配。

「この鍵何？」まさかの妻。

「それは大切な」「大切？どこ？」「どこだっけ」「大切なのに忘れたの？」「違うもう使っていない」「じゃ捨てよ」「あ！」

妻よ。髑らずとどめを刺してくれ。

[#書き出し](#)

## 資格無き者

---

資格無き者にその引き金は引けない。

僕にはわかる。お前には出来ない。そうだいい子だ。渡すんだ。

それは僕の得物だ。

お前みたいなベイビーちゃんには似合わないぜ。

お、おい、やめろ。やめるんだーっ。

### [#書き出し](#)

いもうとがみずてっぽうでぼくをうった。

ぼくのなのに。いっさいになってないのに。

## 1000人の君

---

君が千人いたとしても僕は報われないのでしょうか。

君にはきっともう既に、千度は想いを伝えてる。

けれどもたったの一度すら、応えてなんかくれてない。

それでも僕は出来るなら、千一人目を望むでしょう。

悲しみだけが増えるとしても、確率ゼロじゃない限り、賭け続けるしかないでしょう？

[#書き出し](#)

## すっぴん

---

近所のコンビニへ、スッピンで出かけた。

今日はだらだら過ごすんだ。

さてとポテチポテチ。

新商品はあるかしら。ここら辺にあるはずなのに、見付け出せない捜せない。

「あのっお客さん顔がっ」震える声のバイト君。

あ、いけない。化粧しないと私、眼鼻口がないのよね。

[#書き出し](#) [#twnovel](#)

## 朝顔

---

朝顔は夜に花を咲かせた。

驚いた。こんな景色があるなんて。

深い闇。光る星々。昼間は目立たぬ月すらも、美しく輝く。

「朝顔って夜にも咲くのね」

女の人？ よく見たらこの家の奥さんだ。

昼間と違って何だか綺麗。

「友達と飲んできまーす」

全てを輝かす夜って凄い。

でも本当に夜だけのせい？

[#書き出し](#)

## 馴れ初め

---

馴れ初めなんか聞かれても覚えちゃいない。

父がそう言うと、母は笑った。

### #書き出し

父に借りた本に手紙が挟まっていた。

「君は僕の太陽です」

これってもしかしてあの親父が書いたの？母に尋ねると

「やだ、書いたの私」え？

「この頃あの人女子高生で私教師だったの」え？

「今じゃ性別逆だもんね」ええ？

## 菓子パン

---

私は菓子パンになりたい。

スイートな砂糖ちゃん、和美人のあんこちゃん、知的なチョコちゃんなんかと生まれながらに一緒という

あのけしからん存在になりたい。

誰とでも寝るような後付のジャムやバターなど汚らわしい。

私は菓子パンになりたい。

[#書き出し](#)

「俺、激辛カレー。宜しく」

まさかの男同士。

## 四つ葉

---

四つ葉のクローバーを探し始めて数時間が経過。  
見つかる気配もない。元々運がない僕だ。このままじゃダメだよね。  
僕はネットで霊能力者を捜した。壺を買った。印鑑を買った。  
言われた通りに毎日四つ葉探しもした。  
見つかった。さすが霊能力者。  
この四つ葉できっと、僕にも彼女が出来るはず。

[#書き出し](#)

## 眩しいのは

---

眩しいのは苦手です。

目が開かなくて正しく見えない。

そんな不安、耐えられません。

だから彼女になれません。

### #書き出し

そんな告白されてるのか振られてるのか判らないこと言われたら愛しくて仕方ない。

僕は彼女を引き寄せた。

「大丈夫。キスは眼を閉じてするものだから」

彼女は頷いて目を閉じた。

## 転校生

---

教室に行ったら全員転校生でした。

なんだかリセットされた気分。ぼっちも卒業できるかな？

先輩風吹かせて「何でも聞いてよ」なんちゃって。

「先輩あの」

隣の子が申し訳なさそうに口を開く。

「2年生は二階ですよ？」

へ？俺まさかの教室間違え。

淡い夢から醒めた俺。現実の階段を昇って行く。

[#書き出し](#)

## 待ってる

---

下で待ってるからはやく落ちて来てね。  
隣の家から伸びる枝についた蜜柑。  
その下で息子は口を開けて待っている。  
やだもうあなたも何とか言って？  
「待ってたって無駄だぞ」  
そうそう。  
「ほら、これで狙って落とすんだ」  
家の中からボールを持って来た。  
「男にはやるべき時があるんだ」  
阿呆。

[#書き出し](#)

## 腹を割って

---

腹を突き破って生まれたのは、西瓜の芽。

西瓜の種を飲み込むと芽が出る。あの伝説は本当だった。

栄養過多の腹に根を張り、育った西瓜はやがて大きな実を付ける。

その実を割って食べてみた。

なんて酷い。土壌のせいかな育て方か。

俺は種を飲み込んだ。

来年こそは、美味しい西瓜を作ってやる。

[#書き出し](#)

## 君のメール

---

メールの中に君を見つけられない。

「もう疲れた、さよなら」冷たい言葉。

素敵だよって可愛いよって、いつでも言ってくれたのに、一体これは誰なのかしら？  
返信。

「貴方は誰？彼に何をしたの？」

「そういう所に疲れました」

私は、君じゃない誰かと別れた。

さあて君を、探さなきゃ。

#書き出し

## バッファリン

---

「バッファリンさんの優しさはどこへいったんですか？」

君は憂う。そうかな優しさは健在だけど。

「最近のバッファリンときたら、仕事手伝わない、お茶淹れない、膝枕もしてくれないんですよ。酷いですよね」

そんなバッファリン初耳だ。そんなバッファリン見てみたい。

一緒に探そう、君は東で僕は西。

[#書き出し](#)

## 籠の鳥

---

私は小鳥、籠の中。

人間達は同情するの。自由が無くて可哀想。

でもそうかしら。そうでもないわ。

だって私は見えるもの。

人間達を、縛って繋ぐ鉄の鎖。

それが何かは知らないけれど、そこから逃げられないのでしょうか？

それに何だか痛むみたい。

私の愛する籠の方が、ずっと素敵で自由だわ。

[#書き出し](#)

## 箱庭

---

この世は神様が作った箱庭だ。

美しい海も、立ち並ぶビルも、君が僕を好きだって事も、神の少しの気紛れで、無かった事になってしまう。

けれども僕は愛するよ。君をガッシャーん

[#書き出し](#)

「次はこの子が悪魔で女の子は天使！」

「恋人ごっこ終わり！」

神が新しい遊びを始めた。俺は片翼の悪魔...

## 曜日

---

なんで火曜日の次が水曜日なのかって聞くから、火を消すのは水の役目だろって。

じゃあ水曜日の次が木曜日なのはって聞くから、木は水で育つだろって。

質問し続ける君と最もらしく答える僕。

話し続ける口実欲しさに僕ら言葉を垂れ流す。

好きって言葉以外はこんなにすらすら流れていくのにね。

[#書き出し](#)

## 足跡

---

足跡が残っていたのが不気味だった。

雪の上の足跡、僕の部屋へ向かうだけで戻りがない。

誰かが中に居るってことか？

鍵は僕しか持たないのだが。

そっと裏へ回り窓から覗く。

人が、倒れてる。

[#書き出し](#)

「ヤツ入ってこないよ」

「折角のサプライズ密室謎解きパーティーなのに」

「通報しようとしてる！」

## 最後の魔法

---

たったひとつだけ魔法が使えるの。

たくさんの魔法を使ってきたけれど、これでおしまい最後の魔法。

さよならの理由があの子だなんて本当は知っているけれど、責めたところで仕方がないし。

君のことが大好きだから、最後の魔法を使うわね。

「別れたってこっちの台詞。清々するわ。」

大好き。

[#書き出し](#)

## 墮天使×天使

---

墮天使×天使のブラ新登場！

今日のあたしは墮天使気分。

今日の私は天使気分。

二種類のブラを使い分けて、感じて欲しいオトメゴコロ。

### #書き出し

このCMで火がつき、ブラは売れに売れた。

「買った？」「買ったよー」「彼氏いないのに？」「え、あ、うん。最近できて」「裏切者」  
気付けば彼氏発見器。

## 迷子のドラゴン

---

本屋でドラゴンが迷子になっていた。

話を聞いたら「自分を探しに来たんだ」って。

本の中では「主人公の相棒」という重要な役どころなのに、生い立ちや性格を細かく描いて貰ってないみたい。

「これになりたい」彼が選んだのは、ラスボスがドラゴンの物語。

主人公とうまくいってないのかな？

[#書き出し](#)

## 言葉の味

---

彼は口にした言葉の味がわかるのだという。

いつもしょっぱいことを言っは酒を飲む。

日本酒に合うのはしょっぱいもんだし仕方なからう。それが口癖だ。

そんな彼も年に数度、甘い言葉を囁く。

仏壇には妻の愛した紅茶。これは甘いのしか合わないからなと呟いて

「愛しているよ」と手を合わす。

[#書き出し](#)

## 眠気

---

眠気、をあげたりもらったりすることができたらいいのに。  
そしたら僕の大好きなあの子に、僕の眠気を全部あげる。  
眠り続ける君のこと、僕は大事に大事にするよ。  
こうでもしないと僕のものには絶対ならない君だから。  
君は僕の眠り姫。  
そうならいいのに。そうならいいのに。

[#書き出し](#)

## 本の海

---

本の海に溺れた。

全ての積ん読が僕に復讐したのだ。

荒れ狂う本。

何故読まない、本は囁く。生まれた意味を返せ。

口をぱかっと開き、迫り来る本。文字が踊る。

「この部屋は密室です。探偵は...」

ピタ。

読み上げると本は静まる。

ただ読んで欲しかっただけなんだからっ。

ごめん、僕が悪かったよ。

[#書き出し](#)

## 活字中毒

---

活字中毒という、不治の病にかかってしまった。

朝・昼・夕と1日3回は活字を補給するよう医師から指導を受ける。

読むことは苦ではない。

けれども保険適応外の本代が馬鹿にならず、医師に相談すると処方箋を書いてくれた。

どれどれ。処方箋に記されていた文字。それは、「[#twnovel](#)」

[#書き出し](#)

## 畳の目

---

一日中畳の目を数えていてわかったことは、目の数だけだった。

ちらりとも目が合うことはなかったし、当然いやらしく視線が絡み合うなんてご褒美もない。何も始まらない。見ているだけじゃダメなんだ。

### [#書き出し](#)

「それをきっかけに彼女に告白。付き合っただけで結婚したので畳の上で死ぬとかありません」

## くまさん

---

ある日森の中クマさんに出会った。

そこは花咲く森の道、私は一目で恋に落ちた。

絡み合う視線。その熱い眼差しは、もしかして貴方も同じ気持ち？

手を広げる貴方。逞しいその腕に飛び込んでも、いいのね？

私を抱きしめ今、首筋に口付ける貴方。

[#書き出し](#)

冬眠明けのクマさんに恋をしてはいけません。

## 玩具の指輪

---

それは安っぽいおもちゃの指輪だった。  
その指を彩るには不似合いな。そして頭に白詰草の花冠。  
「血塗られた魔女と恐れられた貴女がね」  
物言わぬ魔女の肩、僕は囁る。  
魔女の像は子供達にとって、愛すべきお人形のようなだ。  
「私にもこんな時代があったわ」  
魔女が囁いた気がした。慈しむ様に。

[#書き出し](#)

## 内臓

---

内臓が一つ足りない気がする。

そう思って臓器を数え直すが揃ってて。

この隙間には何が入る。

もはや人より完璧なのに、これ以上何を足せというのだろう。

困った博士は造ったばかりのロボットに訊ねた。

### [#書き出し](#)

「心を下さい」博士は戸惑う。

それを入れると計算上性能が劣化する。

さて、どうしよう。

## 超難問

---

一日がかりで解いた超難問。

ところが次の日には条件が変わっていた。

「優しさより男気かも」

頑張って解き直す。

「やっぱ仕事は続けたい方かな」

また変わった。さらに挑む。

次々変わり続ける条件。

彼女との結婚への証明問題の解が「貴方とはあり得ないわ」

であることに愚かな僕は気づかない。

[#書き出し](#)

## 童貞

---

俺は、童貞を捨てた。

ゴミ回収当日、トラックに積まれる童貞。

膝を抱えて淋しそう。思えば俺ら、ずっと一緒だった。

彼女が出来ずに悩んだ時も、男に告られ迷った時も。

トラックがでる。俺は駆けだした。

### [#書き出し](#)

俺と童貞は一緒に暮らしてる。

俺に彼女がないのは、そういうわけでやむを得ない。

## 求婚

---

金環日食の日、プロポーズをしたら、  
「やだ、異常行動？」と言われた。  
獣じゃあるまいしと抗議する僕に、  
「いいわ結婚しましょ」  
彼女はそう言って綺麗に笑った。  
「それって異常行動？」  
訊ねると、意地悪な顔をして、僕に口付ける。  
「まさか」  
獣のようなキスだった。

[#書き出し](#) [#twonovel](#)

## ハッピーエンド

---

「ハッピーエンドしか認めない。」  
ハッピーエンドハンターの決め台詞だ。彼はいつもハッピーエンドを求めている。  
そんな彼が最近恋をした。ハッピーエンドにすべく画策するが玉砕。  
望まないエンドのはずなのに、なんだこの達成感。  
これはハッピーエンドじゃないのか？  
一晩悩み、彼は廃業した。

[#書き出し](#)

## 海が見える窓辺

---

海が見える窓をください。

君の願いを僕は聞けない。

君は人魚のお姫様。昔話の姫と違って君は僕に飽きてるね。

僕をナイフで刺すつもり？君の願いを僕は聞けない。

[#書き出し](#)

私は彼を愛せない。魔女に取られた恋心。

心がなければダメみたい。

泡となって、海へ融けたいだけなのに、彼は私に疑心暗鬼。

## 期限

---

砂時計の砂が落ちきる前に、この花が枯れる前に、珈琲が冷める前に。

彼女は期限を切るのが好きだ。

待つのが苦手なのって。

僕はいつもハラハラしている。

なかなか求婚できない僕を、君はいつまで待たろう。

「君はいつまでに結婚したい？」

悩んで僕は聞いてみた。

彼女は笑って「死ぬ前に」[#書き出し](#)

## 心霊写真

---

心霊写真に君が写っている。

霊は君の腰から下にかけて写っていた。

これは何かの前触れか。足の怪我とか。

僕は君に写真を見せた。

### #書き出し

「あーこれね」君は驚きもしない。

「丁度この時スカートが風でめくれたのよ。隠してくれたみたい」

昔の彼なの便利でしょ、君は笑う。

僕のライバルは幽霊です。

## はじまりとおわり

---

誰かが「終わり」を「始まり」と言った。

確かにそうね。

この恋の終わりは別の恋の始まり。

なーんて。

そんなこと思えるわけがない。

思いたくないの。

痛い胸は痛いまま、傷ついた心は傷ついたままで構わない。

なのに癒えてくこの事実。

私に希望を見せないで。

貴方との思い出に泣いていたい。

[#書き出し](#)

## 悲劇のお姫様

---

悲劇のお姫様？上等じゃん！

私の愛する彼を拐かして、塔のてっぺんに一緒にいるの。

それが、悲劇のお姫様。

彼は魔王と呼ばれてる。世間的には彼があの子を攫ったって。

だけど違うの。黒幕はあの子。

あの子はただただ、悲劇のお姫様になりたかった。

さあ、行こう。

彼を救う、私は勇者。

[#書き出し](#)

## 強信症

---

強信症、と診断された。

なんでも信じてしまう病気らしい。

大変な病気ですね、と労られて涙が出そうだった。

俺、本当に何度も騙されたり馬鹿にされたりしてきた。

そんな俺がようやく理解されたんだ。

「それじゃ治療として、この壺と英会話セットを」買う買う。

幸運の印鑑も？OKOK。

[#書き出し](#)

## オタク

---

未来の私がオタクだった。

コスプレに勤しみ、踊っていた。

対策が必要だ。

僕は未来に向けて婚活を始めた。

オタク化する前に結婚しておかなければ。

気合い入れて彼女ゲット。そして結婚。よし順調。

ってこれホントにオタク化するの？

と思っていたら、最近、嫁が実は腐っている事が判明した。

[#書き出し](#)

## 昨日終わった世界

---

そうだ、昨日世界終わったんだった。  
これから先世界を形成することは許されない。  
様々な仕組みに縛られた結果、人間は世界に疲れ果てた。  
世界は解散した。これが世界のなれの果て。  
向かいから誰か来る。妻だ。ふんわり笑ってすれ違う。  
美しい夕焼けに照らされて、僕らそれぞれ帰路へつく。

[#書き出し](#)

## 世界はんぶんこ

---

お決まりの「世界の半分をくれてやる」って台詞。もう何回目だろう。  
私魔王。女子だし争いが苦手だしで、勇者が攻めて来るたびそうやってきたの。  
結構みんな納得してくれて、今じゃ私の世界は四畳半程度。また減るのね。  
ため息ついたら勇者が言った。  
「一緒に住もうか？」  
え、何それ求婚？

[#書き出し](#)

## 朝日にせかされて

---

朝日が僕を急かしやがる。

君とられるのもこれまでか。

君との逢瀬。僕らを引き離すのはいつも朝日。

たまには明るいところでも逢いたいな、なんて可愛い我が侘で拗ねる君。

判ってるくせに。

僕みたいな男が君を愛せるのはこの時間だけだって。

君もこの時間が一番美しいよ。

[#書き出し](#)

僕は夜、君は月。

## 1日の始まり

---

一生を一日に例えると、その始まりは0時だろうか、それとも夜明けだろうか。

君に聞いたら、夜明けがいいって。暗闇よりも朝焼けがいいって。

そうだねそれは美しい始まり。君にはとてもよく似合う。

僕は出来れば0時がいい。

君より早くに生まれ落ちて、寂しがり屋の君を静かに待っていたい。

[#書き出し](#)

## ほつれ

---

縫い目がほつれていた。

君の可愛いワンピースの背中の部分。そっとひっぱるとするする抜けた。

次々に、次々に。

抜けた糸玉が大きくなるにつれて、縮んでいく君。今や親指大だ。

何も気づかずお喋りする君に気づかれぬよう、そっと糸を君に戻す。

君が何でも、僕は好きだよ。

[#書き出し](#) [#twnovel](#)

## 鐘の音

---

最後の鐘が鳴る、響く、鳴り止まない。

君にとって始まりの鐘は、僕にとっておしまいの鐘。

認められず、もう聞こえない鐘の音にしがみつく。

もっとはしゃいでよ。一度だけ口付けたその唇で笑ってよ。

僕を踏みにじって鐘の音を消して。

君があいつと将来を誓った日、僕は友である事を誓った。

[#書き出し](#)

## 恋愛規制

---

「恋愛禁止法」制定後、あろう事か人口は急増した。  
人々が別れに慎重になった結果、出生率が上がったのだ。  
責任を問われ独裁者は失脚。彼は唇を噛みしめた。  
いっそ恋愛自由法にするのだった。  
同時進行何人とも恋愛できる世の中ならば、自分に恋が回る確率も上がったのに。

[#worldT](#) [#恋愛規制](#)

## おしまいの日

---

寝坊した！トーストくわえて学校に向かう。

走れ俺。この展開ってあれじゃん？

角を曲がると可愛い女の子とぶつかって恋に...

ドーン。キタコレ。好み、けど、泣いてる。

「やっと会えた！」

え、始めてお会いしますけど。

「みんな消えました。世界にはもう私と貴方だけです」

不思議ちゃん？

[#worldT](#)

## こんばんはのない世界

---

外に出ると女が近づいてきた。

「ひきこもりのプロの方ですよね？」

確かに俺ひきこもりだけど。

「快適なひきこもりについて取材させて下さい」

何こいつ。俺は走って逃げた。

今のトレンドは室内真っ暗にして蝋燭を灯すことらしい。

冬に暖房の前で食べるアイスみたいな？

闇は人を蝕む。

[#worldT](#)

## 雲使いの村

---

少女は雲を捕まえた。  
雲から器用に糸を作り針を使って編み始める。  
さくっと作ったふわふわセーター。  
するりと手から離れて落ちて雲にさらわれ人の地へ。  
地では事件が起きていた。  
「ウールマーク偽物現る」  
雲使いの村製ウールマークのそのセーター。  
品質良すぎて一波乱。

[#worldT](#) [#雲使いの村](#)

## 水中都市

---

空気姫。

水中都市の王子に恋した地上に住んでるお姫様。

綺麗な声と引き替えに、えらとひれとを手に入れた。

呼吸するたび痛む胸。

けれども恋は叶わずに、地上の花となってしまう。

私の好きなお伽話。

空気？お花？果てぬ空想。

地上に興味を持つするには、充分過ぎる疑問でしょ。

[#worldT](#) [#水中都市](#)

## 死神の彼女

---

死神が怒ってる。

「何で死んじゃうの？」 「死神なのに何で助けるの？」

沈黙。

「「だって好きだから」」

台詞、被ったね。君は真っ赤な顔。

「会いたくて死ぬんだ」 「好きだから助けるの」

沈黙。

僕ら、手を繋ぐ。

「デートしてくれるなら死にませんが」

「何その脅迫」

「嫌？」

「承ります」

[#worldT](#)

本

---

積み上がった本に安堵する。

一冊、また一冊。めくるめく新しい世界。

これは面白い。

この本教えてあげたいな。

これ彼ならばどう思うかな。

ね、どう思う？

顔を上げて私に語り。

読みたい本を探し出すのに一苦労するあの図書館なら彼が必ずいるのにね。

パタン。私は本を閉じた。

[#worldT](#)

僕は待ってる。

きっともうすぐお迎えが来る。

誰が？とても大切な。

大好きな誰かを思い出せない。

淋しいでもね大丈夫。

もうすぐきっと会えるから。

[#worldT](#)

可愛い。

女の子が僕を抱き上げた。

壊れてるよと店主が言う。

ゴメン君を思い出せない。でも温かい。

君は僕と、ずっと一緒にいてくれる？

## 電線少女

---

あたしの彼は天国なのに、この赤い糸はどういう事？  
彼に繋がらない糸ならばいい。なのにどうして消えないの？  
特別な1人は彼だけでいい。ならばいっそ全てと繋がれ。  
って赤い糸を電柱に結びつけのだけれど。  
何これ私、馬鹿みたい。笑った。泣いた。  
天国まで電線、繋がらないのかな。

[#worldT](#)

## 目を閉じて

---

目を閉じた僕に両親は困惑するけれど、理由なんか話さない。  
変わらずに続く日々。僕が多少不便なだけで、パパもママもいつも通り。  
思い切って聞いてみた。  
色わかんなくて平気なのって。  
そしたら言うんだ。  
「色で答え合わせしてただけで元々100点だったもの。困らないわ」  
目が、開く。

[#worldT](#)

## 眠り姫

---

運命に拒絶された。

自分のものにならないのなら、いっそ目覚めなくていい。

俺は姫からドレスを剥がす。

美しい肌。

キスをしてもう一度運命を確かめる。

目覚めない。

俺は姫を隠した。そして姫のドレスを纏い、臥す。

[#worldT](#)

口付けられ目を開く。

「美しい姫よ」

王子、お前には俺で十分だ。

## 最愛の魔女

---

魔法の源は生命力。

使うたび君は年をとり、世界を枯らせて若返る。

いつか世界は壊れてしまう。そしたら貴方も枯れるのに。

永遠に咲いていて欲しい。

僕は魔女から時計を奪う。時計は僕に応えてくれた。

（誰の時を誰に移す）

それはさ。

[#worldT](#)

幼い君の手を引く。

君と枯れた世界を、僕は育てる。

## #novel10

---

「君かわうい〜ね〜」ハチ公前で待ち合わせしてたらナンパされた。  
こういう時って不思議ちゃんの演じると円満解決できるらしい。

「1人〜?」「一人じゃない」「へ?」「わんちゃんと一緒にだわん」  
さ、これで十分でしょ、去って。

「僕、犬好きなんだわん」

あらやだ、出来る。

## [#novel10](#)